「道」のデジタル化 について

中村　淳

「道」のデジタル化

- RCTC 創立 60 周年記念企画「アルバム写真のデジタル化」に次ぐ「道 のデジタル化」に取り組んでいます.
  - 目的：過去に発行された機関誌「道」をデジタル化して今後に残す，OB/OG 会で広く共有する.
  - 完成後は「アルバム写真 DVD」と同様に，総会で頒布する予定です.
  - デジタル化した「道」は PC のディスプレイ上でも，プリンターで印刷しても，読むことができます.
- 「道」のデジタル化 の作業
  - ワープロでの再入力も考えましたが，オリジナリティを重視してスキャンにより PDF 化しています．現物の印刷状態によっては一部不鮮明な箇所もあります.

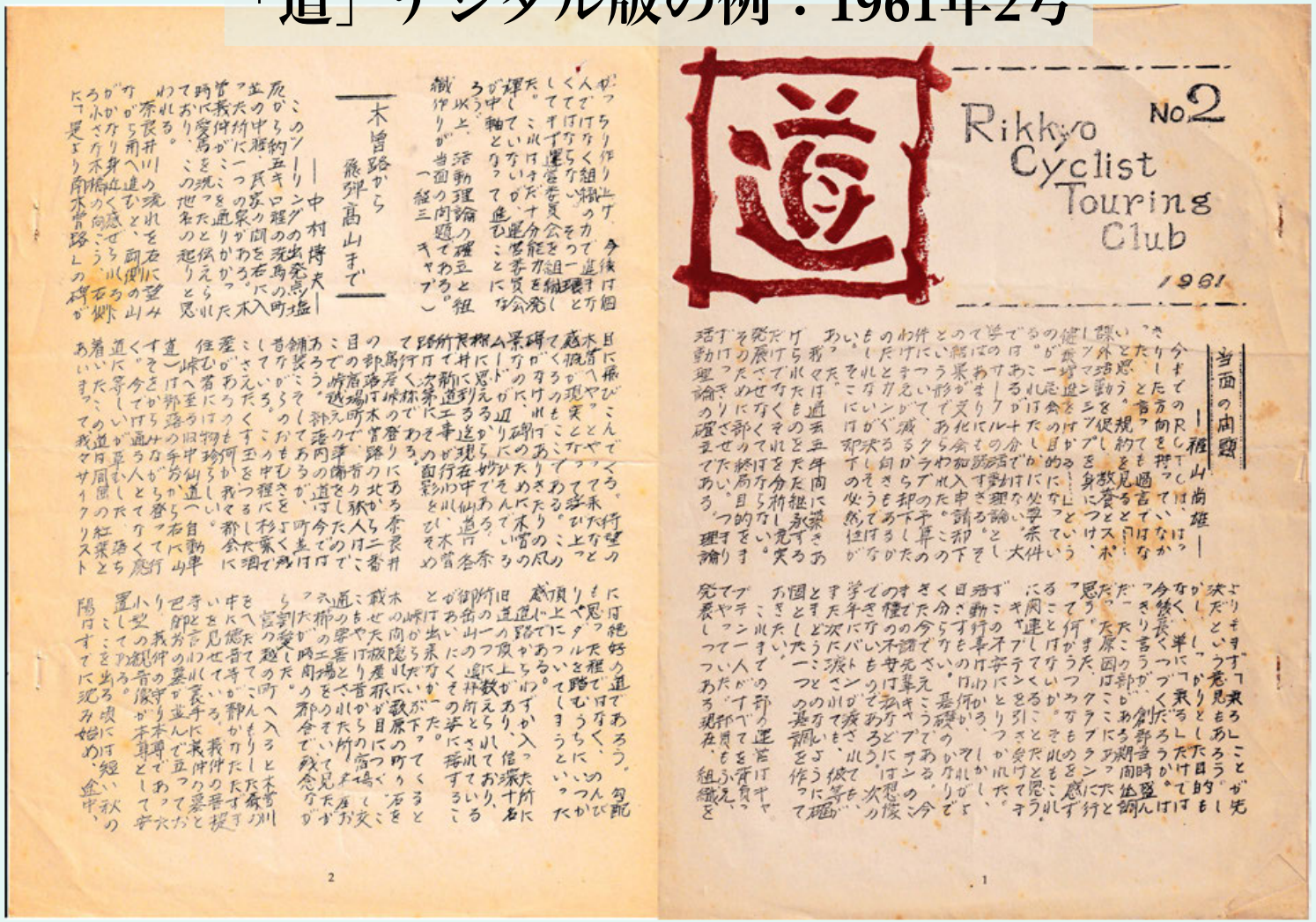
「道」の全号が読めるの？

- 現状では，残念ながら欠号があります．以下の号は所在確認済みです：

号	発行年	号	発行年
2–4	1961–62	69	1987
9–26	1964–68	73–79	1988–90
30–45	1970–78	81–90	1991–94
50–51	1981	92–94	1995
67	1986	97–102	1996–99

- お願い：欠号をお持ちの方は提供をお願いします．

「道」デジタル版の例：1961年2号



道

Rikkyo Cyclist Touring Club

No.2

1961

当面の問題

—稚山尚雄—

木曽路から飛騨高山まで

—中村博夫—

「道」デジタル版の例：1966年16号 (1)

春合宿C班記録

山田庄二

――三月二十六日(土)――

この日はA班B班と一日中行動を共にしたので他の班の記録を参照されたい。

――三月二十七日(日)――

昨夜、野田小学校庭にテントは張ったものの、寒さという自然の猛威には勝てず学校内の教室に泊まらざるを得なかった。　どれにしても寒い。　朝食準備に要した時間一時間、テント片付けに要した時間は十五分である。　伊勢市に入りすぐ畠氷さんの自転車のタイヤの空気がないのを発見、パンクかとタイヤを調べたが何の異常も発見出来ず。　伊勢市のタクシーの運転手はみな学生服みたいなものを着ている。　初めて見た時は学生アルバイトかと思った。　そしてこの市では天婦羅屋で切手を

おかしな町である。　夕食準備の所要時間は火力が弱かったため二時間二十五分もかかった。　野田小学校―伊良湖―鳥羽―二見―伊勢―外宮―放浪寺。

――三月二十八日(月)　晴後曇後雨――

今回の合宿の一番の難所と言われる剣峠にさしかかった。　たったー人で汗りの斜面を見はるかす汗をかいて登る気持は何とも云えない。　その上峠にさしかかり坂を登り切ると視野がパッと開ける。　あの時の気持の爽晴らしさは自転車に乗ったことのある人ではければ解らない。　神津佐の人々の親切さはテイ的である。　マキを持ってきてくれたり、お風呂に入れてくれたりetc. etc……　夕食後、地元の二三才に見える十八才の青年二人が訪ねに来て後藤さん畠斗、真珠を速量された。　夕食準備所要時間四十五分。　今日のコ

―4―

「道」デジタル版の例：1966年16号 (2)

たことに感謝している。

今年度の抱負

キヤツチテン　斉藤勝之

三月二十日の総会以来なんだかスケジュールをこなすのに追われて四月も半ばを過ぎてしまいましたが、ようやく一段落ついたようです。最近新入部員を迎えることがしばしばで、そのたびに微等もついに沢山の弟や妹を持つ身になったのだなあと思い何もわからずに忠節のあとをチョコ〳〵ついていった頃をなつかしく思い出します。そして後輩が増えるたびに、考さ〳〵してくるのです。なんだか急に年をとってしまったみたいで変だけれど……。

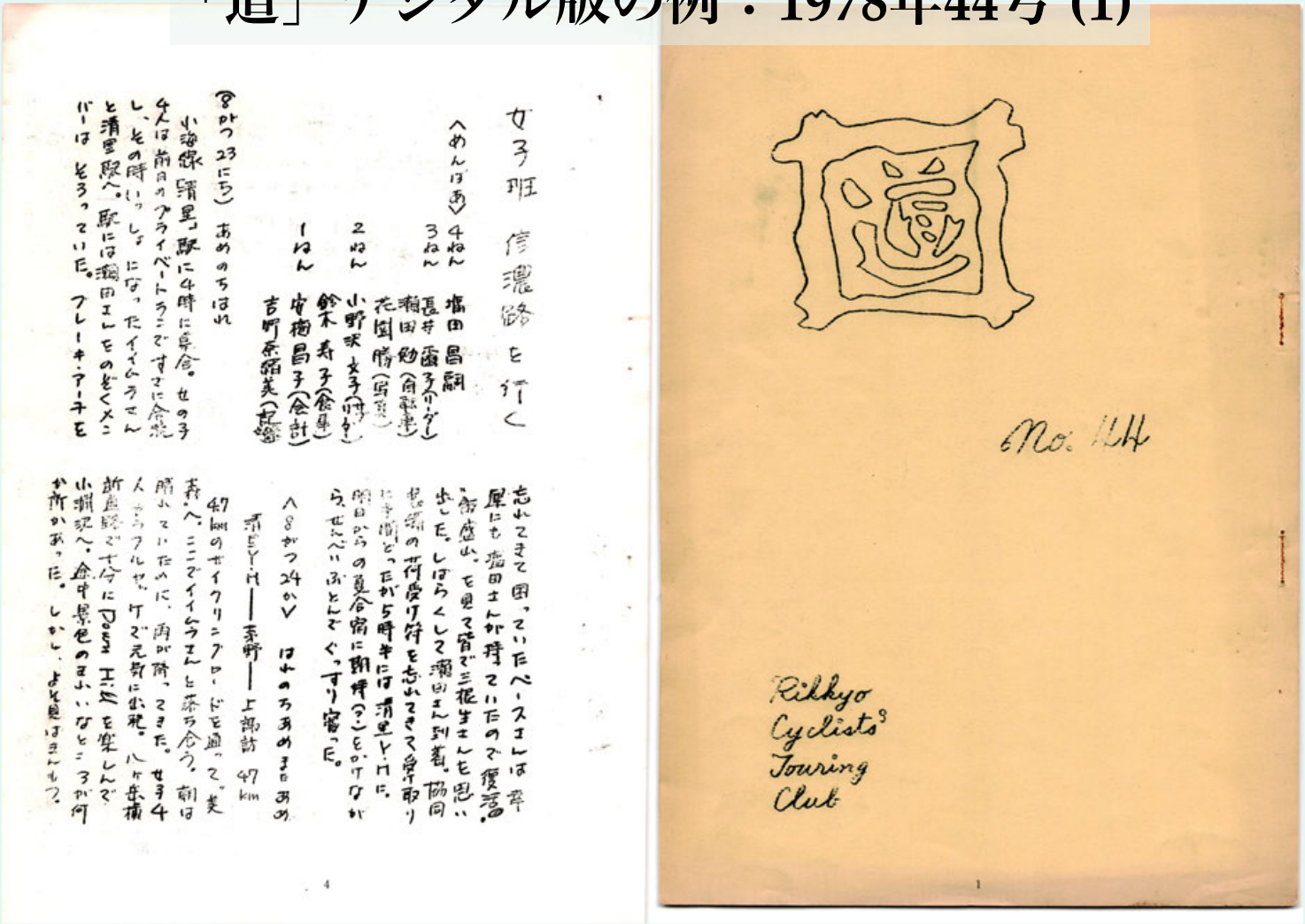
さて今年のクラブ活動の特色は一、我がクラブの変遷十年史の整理編さん　二、外部団体へのクラブのアピール　三、オープンサイクリングの実施にあります。後進のクラブを創立から九年目、その意味で来年と二年がかりでクラブの今までの流れを振り返ってみましょう。ここ一、二年の動きは大体の人が知っていると思いますが、他等のクラブが今までどのような動きをして今日に至っているか、僕自身も良く知らないし、それだけに皆に知って欲しいと思うのです。毎年〳〵次々と新しい企画が出て特色のあるクラブ活動がなされていますがそれが前進なのだと言えるのは　これまでの九年間の動きをよく知っていてこそではないでしょうか。これまでの活動の良さを知り、活用することは新しい企画を盛り込むのと同じ位に大切なのだ。そう思えるのです。学びましょう。そして更に自分からいろ〳〵な所に顔を出して、立教大学サイクリスツ・ツーリング・クラブが大学のサイクリングクラブとして、どの位重要な位置にあるかを知りましょう。そうすれば後進が

社会に於る数学的思考の限界

よしお　こうの

サラリーマン、月給取り、勤め人、ビジネスマンどれをとっても口クな名前ではない。何の因果か、私はサラリーマンなぞになってしまった。　私は本来数学者となるべき人間であった。それが教授は何を間違えたのか、私に不合格をつけ、さらに驚いた事に追試でも可なぞつけおった為、私の数学に対する情熱は著しく害され、終に数学者になるのを断念せざるを得なかったのである。　教授のミスで我国は偉大な数学者と、ノーベル賞五・六個を失った事になる。全く惜しい。　会社では経理部、出納課という所にブチ込まれた。会社は私のダイ希な数学的才能を見込んで配属したのであろうが、これはチト見当外れである。何しろ私は天才的数学者になるはずであったのだから、微分・積分は云うに及ばず、人工衛星の軌道位たちどころに計算してみせるのだが、会社は何を勘違いしたか、私にソロバン等というおよそ前近代的、計速的遅物とも云うべきものをあてがったのである。何しろこの夜店のフシダンゴをすうりと並べたようなケッタイな代物で掛算、割算迄やるのだと聞かされ、しばしたう然としてしまった。私は社長に、私の頭脳はこの様な所に浪費すべきではなく、もっと高度なより了カデミックな分野で活用すべき事を力説したが、いっこう聞き入れようとしない。つそれなら会社の電子計算機と競争させてもらいたい、口からカードをほうり込んでくれれば、たちどころに答をハイセツしてみせるぴと進言したがこれ又然殺されてしまった。それどころか社長は、「電子計算機は一秒間に七ケタづつの掛算なら一万回も出来るぴなどと云って私を問詰し、かたわらに山と積んであるカードをむんずとつかみ、今にも私の口にねじ込み

「道」デジタル版の例：1978年44号 (1)



女子班 信濃路を行く

〈めんばあ〉 4ねん 塩田昌嗣
3ねん 長谷亜子(リーダー)
瀬田勉(自転車)
花園勝(写真)
2ねん 小野沢文子(サブリーダー)
鈴木寿子(会計)
1ねん 安藤昌子(会計)
吉町京子(記録)

(8がつ23にち) あめのちはれ

小海線「清里」駅に4時に集合。女の子4人は前日のプライベートランですでに合流し、その時いっしょになったイイムラさんと清里駅へ。駅には瀬田さんもゆくメンバーはそろっていた。フレーキ・アーチを忘れてきて困っていたベースさんは幸屋にも塩田さんが持っていたので復活。「飯盛山」を見て皆で三花さんを思い出した。しばらくして瀬田さん到着。協同組合の荷受け符を忘れてきて受け取りに手間どったが5時半には清里Y.Hに。明日からの夏合宿に期待(?)をかけながら、せんべいふとんでぐっすり寝た。

〈8がつ24かゝ〉 はれのちあめ

清里Y.H——茅野——上部訪 47km

47kmのサイクリングロードを通って、美森へ。ここでイイムラさんと落ち合う。朝は晴れていたのに、雨が降ってきた。女子4人からフルヤ、ケで元気に出発。八ヶ岳横断道路で十分に「Poser」を楽しんで小淵沢へ。金中景色のよいなところが何か所かあった。しかし、よく見はらしもつ

4

「道」デジタル版の例：1978年44号 (2)

秋合宿報告

「激闘の三国峠」

レポーター　平野田　創十郎

今年プロローグ——

秋合宿は10月30日5日11日1日に行なわれ、メイン・エベントの三国ヒルクライムは10月31日正午をもって開かれた。

今回で3回目になるヒルクライムだが、昨年までは男性だけで数ってきたこのコースを、今年は女性にも開放するとの決定がなされ、男性陣の強力な要望のもとに、そのワクを拡げ、「男性陣とは別行動」とする三国ヒルクライムとは別に、女性によるもうひとつの三国ヒルクライムが、非公式ながらタイムも計測された。

10月30日　徐晴

中津川の要がタ陽に紅く染まるころ、昨日の三国ヒルクライムに参加した人たちが、男性陣は民宿「ゆまぐち」に集まってきた。女性陣は「やまぐち」に集まってきた。

民宿で「懇合」にて

ヒルクライムなどは、変なのだ。

参加されたことのない方は、どうもクライム嫌いですって？　以来、初めての女性が参加されたのだ。

はじめての経験なので、緊張でなにかぎこちなくなる。

今年は2年生以上が参加できる。

ちょっとおかしい。

今年は2年生の○○リンは、いままでの「ヒクライ」とは違ってしまったカラ、身につけているものは、一番人並み外れて重たくなっている。

3年生の○○クンは自分の顔と相手に、ちょっとカマンでできない自分の顔と相手に、ちょっとカマンでできない。

4年生の○○さんに至っては、自主規制（国家公安委員会）による。

今年の合宿で恐れていたものは、宿のこともの年とちがって、宿のこともの年とちがって、関係していると思えるのは、ないこと。

感激の夜叉神峠

鈴木寿子

10月16日、コースがいくつの用意され、行きたいコースを自由に選べる(若干、人数制限はあったが)という画期的なクラブ・ランが行われた。

我A班は、瀬田(リーダー)、鈴木(書記)、小野沢(会計)、鈴木(書記)、眉山というメンバーで「夜叉神峠と中津川隧道」に臨んだ。

新宿駅アルプス広場に PM.8:00 に集合。PM.11:55 発の夜行にのり、韮崎に着いたのは、AM.3:30 頃だった。外はまだまっくらで霊気が漂うような冷たさと静けさがあった。山に登るとき30人の人といっしょに駅のコンクリートの上で寝た。シンシンと底冷えしたが、それにもめげず熟睡してしまった。AM.5:30 頃起き、軽く朝食をとって自転車を組み立て、AM.6:00 に韮崎駅を出発した。街はまだ眠っており、長距離トラックがライトをつけて走っていた。

登りは 35 KM だったがそのうち半分は、ダラダラとした登りで舗装されていた。登坂率が7～8%が比較的急な登りだったが、女子の私達でもおりておしたいなどとは全然考えなかったので、三国峠よりは勾配がゆるやかで地道のところも道が比較的よい峠という感じだった。

登りは女子二人が、どっと休みながら登ったので頂上近くについたのは11時頃だった。夜叉神トンネルをぬけたところで昼食をとったのだが、そこで RUN の最中3回会った品川ナンバーの有閑マダムに会った。そこで私のあのおそまし

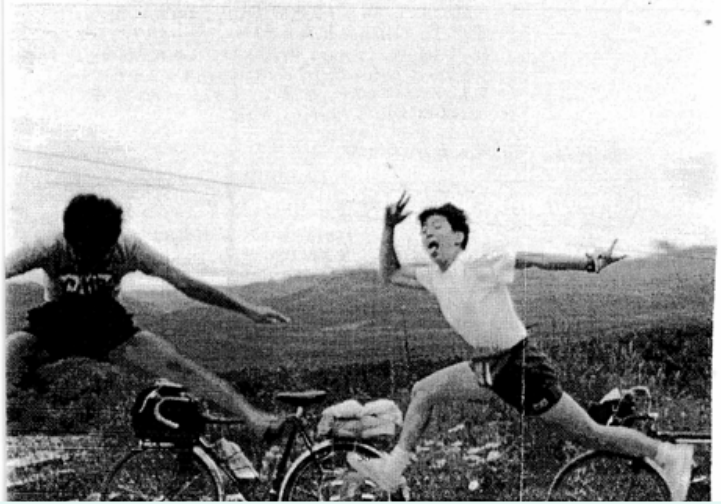
「道」デジタル版の例：1991年82号 (1)

北海道合宿班長をつとめて　　浜児玉　洋

今回の合宿は私にとって最後の合宿となったわけですが、とても充実したいい合宿だったと思います。なんといっても走りが充実していた。毎日、広大な北海道の自然の中を、朝から晩までヘトヘトになるまで走りまくったことは、学生時代のいい思い出になるでしょう。

班員諸氏へ、感謝のことば。

平井：その大柄な体格、温厚な性格、落ち着いた言動からも分かるように、とても頼りになる男です。平井のおかげで私はとても楽させてもらいました。どうもありがとう。これからは良き上級生として部をどんどん引っ張っていって下さい。



'91 長塚班 北海道合宿の記録

めんばー：長塚 章　（リーダー）
佐藤 弘人　（食事係）
石沢 健二　（会計係）
山内 大輔　（写真係）
千葉 直孝　（記録係）

7月28日（日）　晴のち曇

とうとう出発の日が来てしまった。我が長塚班は午後1時という、他の班よりもかなり早い時間に部室前に集合した。ギア調整等の整備を済ませ、備品をわけて出発したのは午後4時だった。そうそう、加治家さんから、ちゃんリンシャンをいただいた。出発した時点では我が班は4人しかいなかった。そう、山内はひとあし早く北海道へと旅立ち、1人ではしっているのだった。う～ん、ハングリーだぜ山内！

出発後すぐ長塚さんのチェーンがトラブって一人学校へひきかえすことがあったが、午後6時半頃にはフェリー埠頭に到着した。自販機のカップラーメン等ひもじい夕食を済ませし、超暇な時間を過ごした。他の班もぞくぞく到着し、見送りには伊藤さん、斉藤さん、小田川さん達が来てくれた。

午後10時半頃フェリーに乗り込み、軽く食事をして風呂にはいっているとフェリーが出発した。なかなか快適な船でみな大満足！！！

7月30日（火）　曇時々晴のち霧雨
釧路～霧多布　　124 km

釧路のフェリーターミナルに到着後すぐ、一人ではしって遅しくなった山内と合流出来た。ボクの班は、まず釧路湿原の展望台に向かった。自転車に乗れるのが嬉しくて嬉しくて結構とばした気がする。最後になかなかキツイ上りがあったがなんとかたどり着いた。展望台からの景色は曇っているせいもあり、特に感動モンでもなかった。

厚岸に向かう途中、Aコープでタダで飲んだ牛乳のうまかったこと！！！さすが北海道って思った。この頃から天気も良くなりだし、待ってましたとばかりに日焼け止めをぬりTシャツに短パンという恰好で軽快に進んだ。「疲れたなあ」と思いながら上っていると右手にドバーっと海が広がった。すごくキレイな景色で超感動しまくりながら「この瞬間があるから、頑張れるんだよなあー」と思った。

当初の予定の厚岸に着いたが、あと40kmはしって浜中まで行ってしまおうということになり出発。少し曇りだしTシャツじゃちょっと肌寒くなってきて、やがて霧雨か霧り始めた。アップダウンの激しい道で大変だったけど、また海が広がったときにはさっき以上に感動した。ボク達以外には誰もいなくて、この風景はボク達だけのものだった。石沢が柵を乗り越えて変なポーズで写真撮ったのには笑ったよ。でもすっげー寒かったよなあ、まさか夏合宿でホット缶コーヒーの世話になるとはねえ。

初日のテン場は霧多布の小学校になり、レトルトカレーを夕食にした。山内が中テントを持っていたので大テントに3人、中テントに2人という贅沢なことが出来たのだが、翌日に起きるハプニングをこの時誰も知るよしがなかった。

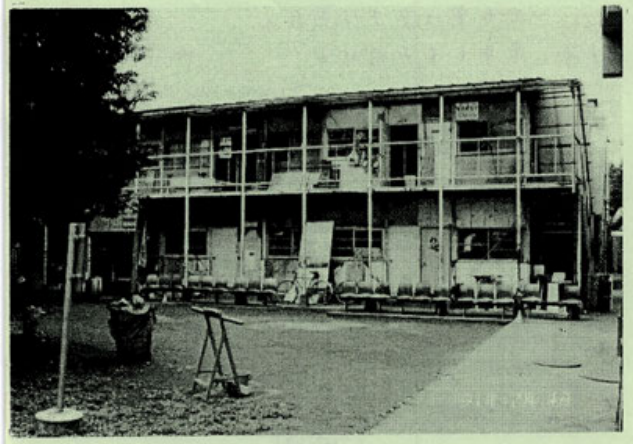
40

49

「道」デジタル版の例：1991年82号 (2)

道82号　特集

さようなら24部室



-219- 206

みなさんご存じの通り、24部室が今年度限りで取り壊されることになりました。
そこで、今回「道」82号では、部室についての特集を組むことにしました。

「ＲＣＴＣ二十五年史」によると、ＲＣＴＣが部室を獲得したのは、1968年４月22日、クラブ設立から11年後のことだったようです。

1957年に「立教サイクリング同好会」として発足したこのクラブが、その後徐々に発展して、1961年に「立教サイクリスツ・ツーリング・クラブ」と改名、運営委員会を設立、機関誌「道」を創刊し、1964年に文化会（現在の文化団体連合）に加入し、さらにＲＣＴＣと2～3の他大学の自転車のクラブが中心となって、東日本学生サイクリング連盟＝ＥＳＣＡを結成し、その初代理事校になるなど、すでにクラブとしてしっかり確立されたうえでの部室獲得だったと思われます。

活動の拠点を得たことでＲＣＴＣは更に発展し、1970年からは三国ヒルクライムも始まり、ほぼ現在と同じ形態になって今日に至っています。

現在24部室には20のサークルが入っています。３つの会議室を加えると部屋数は23個で、名前と違うじゃないかといわれそうですが、一説によると、トイレも加えたので全部で24、ということだといわれています。

建物は２階建てで、１階・２階とも南側と北側にそれぞれ６部屋ずつに仕切られ、そのうちの１階の北側東端がトイレになっています。１階には、我がサイクリスツ・ツーリング・クラブの他に、考古学研究会、マジック研究会、マーケティング研究会、服飾デザイン研究会、ジャーナリズム研究会、日本文学研究会、舞踏研究会（競技ダンス部）、そして第一・第二・第六会議室があり、２階には、中国研究会、児童文化研究会、華道部、貿易研究会、落語研究会、福音キリスト者聖研会、堀の内セツルメント（立教子供会）、時事問題研究会、鉄道研究会、長唄研究会、囲碁部、書道研究会があります。「～研究会」という名前が多いことでわかるとおり、この建物に入っているサークルのほとんどが文化団体連合に属しています。そして20のサークルのうち、スポーツを表看板に出しているのはＲＣＴＣだけのようです。（ダンスをスポーツと呼ぶ人もいるかもしれませんが）

208

「道」を読み返して感じること

- 時代の世相
  - 交通事情，物価，流行語，…
  - ロウ原紙 + 鉄筆 ➛ ボールペン原紙 ➛ コピー ➛ ワープロ，写真付き
- 時代の学生気質（私見）
  - 1960 年代以前は大学生としてのプライドや気負った心理，統一的な価値観を強く感じます．それが時代とともにマイルドに，個人主義的な方向に変わっていくように思います．
- “学生サイクリングの 40 年史” であり，興味深い．

今後やってみたいこと

- 「道」とアルバム写真を組み合わせて，〇〇年ぶりのグラフィカル記録をつくる．現在の注釈やコメント，再訪録なども入れて記録的な価値を高める．
- 過去の記録との対比で，新たな活動や投稿をする．
- それらを肴に旧友と飲む．

- “あなたも「道 のデジタル化」作業に参加しませんか？”
  （OB/OG 会の運営に参加しませんか？）